

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671500082
法人名	有限会社 さくら商事
事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
訪問調査日	平成21年4月22日
評価確定日	平成21年5月22日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671500082
法人名	有限会社 さくら商事
事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
所在地	鹿児島市東佐多町2060 (電話) 099-295-2422
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年4月22日

## 【情報提供票より】(平成21年3月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 14.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	0 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲会病院 有村医院 久保クリニック 西園歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中、広々とした敷地に、季節の花や木が植えられた中庭を囲むように建てられたホームである。地域の人々に温かく見守られながら、平和で穏やかな時間が流れている。近隣の小中学校や住民との交流が積極的に行われており、花壇の手入れや中庭でのグランドゴルフの練習、夏祭り等にも参加していただいている。医療面では、かかりつけ医の受診や訪問診療も手厚く行われており、利用者およびご家族からの信頼も厚い。実習やボランティアの受け入れおよび職員への資格取得の奨励など、認知症ケアや人材育成にも前向きに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された課題については、前向きな取り組みが行われ、具体的な改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で検討した上で、管理者がとりまとめを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には、町内会長や民生委員、小中学校長や警察、消防、地域包括支援センターおよび家族会代表の参加を得て定期的に行われている。ご家族や地域からの要望や提案、防災等についての話し合いが行われており、サービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が年2回開催されており、ご家族からは具体的な質問や提案が挙げられ、対応や説明が行われている。毎月、利用者が書かれたお便りや絵および写真を添えて、ホームでの暮らしぶりや健康状態についてご家族に報告している。年3~4回は、さくら新聞を発行している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町の文化祭への作品出展や、地域の清掃活動への参加を行っている。また、校区の運動会や敬老会に招待されたり、サマーボランティアや実習、総合学習等を受け入れるなど、積極的に地域との交流を図っている。火災訓練に近所の方々が参加されるなど、緊急時の協力体制も整っている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時より、地域とのふれあいを盛り込んだ基本理念を掲げており、地域密着型サービスを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の思いを尊重して目線をあわせ、ゆっくりと1対1の空間を大事にする姿勢を職員間で共有しながら、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭への作品出展や、地域の清掃活動への参加を行っている。また、校区の運動会や敬老会に招待されたり、サマーボランティアや実習、総合学習等を受け入れるなど、積極的に地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で検討した上で、管理者がとりまとめを行っている。また、前回の外部評価で指摘された課題については、前向きな取り組みが行われ、具体的な改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、町内会長や民生委員、小中学校長や警察、消防、地域包括支援センターおよび家族会代表の参加を得て定期的に行われている。ご家族や地域からの要望や提案、防災等についての話し合いが行われており、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市高齢者福祉課や介護保険課に出向き、情報収集を行っている。また、地域包括支援センターからの訪問は随時受け入れており、連携してサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者が書かれたお便りや絵および写真を添えて、ホームでの暮らしぶりや健康状態についてご家族に報告している。年3～4回は、さくら新聞を発行している。金銭管理については、個別に出納帳が作成されており、ご家族の面会時に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開催されており、ご家族からは具体的な質問や提案が挙げられ、対応や説明が行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動等による影響を理解しており、日頃からユニット間で利用者や職員が行き来する機会をつくったり、職員の入れ替わりがある際には、引継ぎ期間を十分に取り、時間帯によって人員配置を手厚くするなどの配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が作成されており、内部研修や外部研修の参加が積極的に行われている。外部研修受講後は会議で報告し、全員で共有するように努めている。各種研修案内が掲示板に掲示され、職員が希望する研修に参加できるように支援している。管理者からの助言により、多くの職員が在職中に資格を取得している。		研修計画が作成され、資格取得も積極的に奨励しており、職員の資質向上には積極的に取り組んでいるので、今後は、各人の知識や経験、立場などに応じて計画的に育成する体制を整えていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加しており、同業者や医療機関、福祉施設等との交流機会を持っている。近隣のグループホームとは、相互に職員の交流も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人やご家族に見学に来てもらったり、実際にレクリエーションに参加して、一緒に食事するなどして早く馴染めるように配慮している。また、入居後も必要に応じてご家族の面会を増やしたり、希望があれば泊まってもらうなどして支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の力を見極めながら、調理の際には下ごしらえや味見を一緒に行っている。また、利用者からは野菜や花の育て方等を学んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に希望や意向の把握が行われ、個別ケアの内容に沿った「個別の日」を設けるなどの工夫をしている。意思表示が困難な利用者については、ご家族の面会時等に情報収集して本人本位に検討し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族、職員、かかりつけ医等、必要な関係者から情報収集を行いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な評価や見直しを行いながら、利用者に変化が見られた場合にはその都度、本人、ご家族、職員、かかりつけ医等で話し合いを行い、現状に即した計画を新たに作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や利用者宅への外出、美容院や医療機関受診の付き添いなど、本人やご家族の要望に沿って柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望によってかかりつけ医を選定し、適切な医療が受けられるように支援している。利用者の状態によっては随時、往診や訪問診療が受けられるよう医療機関との連携が保たれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ終末期の対応事例はないが、「重度化した場合の対応に関する指針」を作成し、本人およびご家族への説明を行い同意書もいただいている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に勉強会を行い、利用者の誇りやプライバシーに関して意思統一が図れるようにしている。カルテ等も外部から見えないように配慮して保管しており、個人情報の適切な管理が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活やレクリエーション等、利用者の力やペースに合わせて行うように配慮している。食事の献立や入浴の時間等は、利用者の希望に沿って柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食材の買出しや準備をしたり、中庭やサンルームなど、普段と違う場所で食べるなどして、食事が楽しみなものとなるように工夫している。また、外食の機会も持てるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴機会を確保することを基本にして、利用者の希望の時間等に配慮しながら支援を行っている。また、入浴嫌いの利用者に対しては、無理強いせず原因を考えながらタイミングを見計らい支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業経験のある方には、畝の作り方、野菜や花の育て方を教えてもらい、主婦の方には料理の味見等してもらい、利用者それぞれの生活歴や力が活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や夕涼み、近所のお店への食材の買出し等、自由に外出できるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠を行わないケアを心がけている。外出する利用者に対しては、さりげなく声かけを行い、一緒に出かけるなどして見守り支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会を含めた緊急連絡網が作成されており、消防署の協力のもと、火災訓練では避難誘導や消火器の使い方などについて指導を受け、近所の方々も実際の訓練に参加していただいている。毎月のミーティングでは、通報訓練や避難場所の確認および蘇生訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表において、食事量や水分摂取量の把握が行われている。また、利用者の状態や力に合わせて、食事の形態を変えるなどの配慮がなされている。		食事内容や献立、形態等には十分に配慮されているが、さらなる質の向上を目指して、管理栄養士等の専門家から、栄養バランスに関しての評価や助言が受けられるように検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームや廊下は広くゆったりとしており、ソファやベンチ等のくつろげるスペースも確保されている。明るく大きな窓は開放感があり、季節の花々が楽しめる中庭やサンデッキ、サンルーム等も整備され、居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、使い慣れたものや好みのものを活かしながら、利用者の生活しやすい居室となるように工夫している。		